

令和7年度 文京区立 千駄木小学校 学校関係者評価報告書

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
	深く考え正しく判断できる子どもの育成	基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成	・毎時間のねらいと指導上の留意点や安全配慮を明確にして授業に臨む。 ・各教科の標準時数の中で、必要な指導事項全てを指導できるように配慮するとともに、各学期の実施時数の配分を確認し、バランスよく進められるようにする。 ・Myタイムを校内研究の中後に控え、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 ・Myタイムは、主体的に学習に取り組む態度を育成し、自立した学習者を育てることを目的とし、学校全体の自らの学習を振り返り、より伸ばしたいところを伸ばしたり、足りないことを補ったり、授業時間では実現しきれないことに挑戦したりする活動を設定する。 ・Myタイムにおいて、自分に合った課題選択ができるようにするために、児童が自分の力を知ることができるようにする。 ・「対話を取り入れた授業」については、互いの考えやその理由を示して、共通点や相違点を基に対話が進み、自分の考えがより深まったり広がりやすくなることで深い学びにつなげていく。 ・金曜日の朝の時間に実施する「対話タイム」において対話の基礎となる力を培う。 ・「千駄木スタンダード」に基づく全教員の共通理解をもとにした学習習慣・学習振振の指導をする。 ・一人一台タブレットの環境を活用した学習活動を充実させ、家庭学習につなげるなどして、自学自習の態度と姿勢を身に付けさせる。 ・学年で統一した家庭学習を確実に実施し、自らすすんで学習する習慣を身に付けさせる。 ・5・6年生の教科担任制を実施し、担当した教科の教材研究等を充実させ、指導方法を工夫することで、高い専門性に基づいた授業を展開する。 ・金曜日の放課後に「夏期教室」を実施し、児童が夏関する機会を設定するとともに補習のチャンスを作る。 ・毎週月曜日の朝の時間に、保護者による読み聞かせ又は朗読書を実施する。 ・各教科の指導内容に関連した読書活動例をもとに、読書習慣を身に付けさせるための全校的な取組を、図書支援員と協力して実施する。 ・年度の最初に図書室利用に関わる指導を行う。夏休み前には、読書感想文の書き方の指導と、図書支援員からお薦めの本の紹介を行う。 ・教材研究研修において、主幹教諭・主任教諭が自らの得意な教科について、他の教員に向けて指導・助言する機会とし、教員全体の指導力向上を目指した取り組みとなるようにする。	・学年会等で学習の進度等について話し合い、学年でそろって進められるように工夫できた。 ・適業に実施授業時数を書き、実施時数が常に分かるようにした。 ・Myタイムを校内研究の中後に控え、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った。 ・Myタイムは、主体的に学習に取り組む態度を育成し、自立した学習者を育てることを目的とし、学校全体の自らの学習を振り返り、より伸ばしたいところを伸ばしたり、足りないことを補ったり、授業時間では実現しきれないことに挑戦したりする活動を設定した。 ・Myタイムにおいて、自分に合った課題選択ができるようにするために、ページクドリル、学期末のワークテスト、ドリルパーク等を活用して客観的にとらえさせるとともに、MIMのアセスメントを通して読書力を把握し、HyperGUの結果をもとに学習への自己満足度を把握できた。 ・オクリンクプラスの活用や国語の初見の感想の共有を行った。 ・金曜日の朝の時間に実施する「対話タイム」において対話の基礎となる力を培った。 ・「千駄木スタンダード」に基づく全教員の共通理解をもとにした学習習慣・学習振振の指導をした。 ・一人一台タブレットの環境を活用した学習活動を充実させ、家庭学習につなげるなどして、自学自習の態度と姿勢を身に付けさせた。 ・学年で統一した家庭学習を確実に実施し、自らすすんで学習する習慣を身に付けさせた。 ・5・6年生の教科担任制を実施し、担当した教科の教材研究等を充実させ、指導方法を工夫することで、高い専門性に基づいた授業を展開した。 ・金曜日の放課後に「夏期教室」を実施し、児童が夏関する機会を設定するとともに補習のチャンスを作った。 ・毎週月曜日の朝の時間に、保護者による読み聞かせ又は朗読書を実施した。 ・各教科の指導内容に関連した読書活動例をもとに、読書習慣を身に付けさせるための全校的な取組を、図書支援員と協力して実施した。 ・年度の最初に図書室利用に関わる指導を行った。夏休み前には、読書感想文の書き方の指導と、図書支援員からお薦めの本の紹介を行った。 ・教材研究研修において、主幹教諭・主任教諭が自らの得意な教科について、他の教員に向けて指導・助言する機会とし、教員全体の指導力向上を目指した取り組みとなるようにした。	B	・Myタイムでは、自ら調べたいと思うことについて、仮説や調べ学習の計画を立てて取り組むことができるようにする。 ・チームズを活用し、授業と家庭学習が連結した内容になるよう工夫する。 ・家庭学習の評価をなるべく簡略化した方法でできるような工夫をする。 ・3・4年生において、将来、実施するであろう教科担任制に向けて交換授業を実施する。 ・図書支援員からお薦めの本の紹介(ブックトーク)を行う。

学習指導		主体的,対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・「対話を取り入れた授業」を多くの教科や学校生活場面で効果的に取り入れ、互いの意見のよさを受け入れ、よりよい考えを作り出す児童の育成に努める。 ・自分の考えを伝えるために必要なプレゼンテーション能力を発揮できるよう、一人一人の表現力や考えをつくる思考力の育成を図る。 ・授業においてタブレットを活用し、オクリンク等を使うなどして、一人一人に考えをもたせ、交流を通して、深い考えにつなげるために効果的な指導を実現する。 ・タブレットを通して、学習成果物の記録や提出を行い、自己評価、他者評価に活用する。 ・児童が主体的に取り組み、児童自身がPDCAを意識して活動できるよう、学級活動、委員会活動、クラブ活動の改善・充実を図る。 ・自己申告の授業参観の機会を活用し、教員がともに授業を参観し、指導技術を磨き合う。	・「対話を取り入れた授業」を多くの教科や学校生活場面で効果的に取り入れ、互いの意見のよさを受け入れ、よりよい考えを作り出す児童の育成に努めた。 ・自分の考えを伝えるために必要なプレゼンテーション能力を発揮できるよう、一人一人の表現力や考えをつくる思考力の育成を図った。 ・授業においてタブレットを活用し、オクリンク等を使うなどして、一人一人に考えをもたせ、交流を通して、深い考えにつなげるために効果的な指導を実現した。 ・タブレットを通して、学習成果物の記録や提出を行い、自己評価、他者評価に活用した。 ・児童が主体的に取り組み、児童自身がPDCAを意識して活動できるよう、学級活動、委員会活動、クラブ活動の改善・充実を図った。 ・自己申告の授業参観の機会を活用し、教員がともに授業を参観し、指導技術を磨き合った。	B	・「対話を取り入れた授業」では発言の多さを求めず、内容の質を高めることに注力する。 ・総合的な学習の時間の内容を精査し、探求の学習を実現できるように学年で相談して進める。
	健康でたくましい子どもの育成	体力向上・健康増進	・体育館遊びができる時や気候がよい時は体を動かして遊ぶよう促す。 ・体力向上につながる「縄跳び週間」「大縄週間」「マラソン月間」を実施する。 ・体力テストの結果や健康の記録等をもとに、自らの目標をもたせ、記録の伸長を確認できる学習カードを活用して取り組ませる。 ・体力向上推進プランに基づき、体力アップトレーナーを活用し、体育の授業を充実させ、健康増進につながる保健指導を充実させる。 ・体力向上に向けた取組において、児童から発信する機会として運動委員会(児童)の活躍の場を設定する。	・体育館遊びができる時や気候がよい時は体を動かして遊ぶよう促した。 ・体力向上につながる「縄跳び週間」「大縄週間」「マラソン月間」を実施した。 ・体力テストの結果や健康の記録等をもとに、自らの目標をもたせ、記録の伸長を確認できる学習カードを活用して取り組ませた。 ・体力向上推進プランに基づき、体力アップトレーナーを活用し、体育の授業を充実させ、健康増進につながる保健指導を充実させた。 ・体力向上に向けた取組において、児童から発信する機会として運動委員会(児童)の活躍の場を設定した。	B	・更に外遊びを励行する。 ・学習カードを活用し、達成感を味わいながら、体力向上に取り組むことができるようにする。

生活指導・特別	心豊かで思いやりのある 子どもの育成	自分のよさを発見させる。	・互いのよさを認め合う活動を日常的に実施する。 ・「いいとこみつけ週間」を「いのちと人権を考える月間」と関連させて、5月・12月に実施する。 ・教員が意図的・計画的に当該児童のよさを引き出す活動を設定する。 ・5・6年生は教科担任制において学年全体の児童の様子について共有し、児童一人一人について学年で情報交換し、学年の担任で協力して、児童が落ち着いた学校生活を送れるようにする。 ・各学期の終わりに学校生活振り返りアンケートを実施し、今学期の努力の成果と課題を自覚させ、次の学期の目標設定の参考資料とするともに、自己の課題をどのように解決するか考えさせる。 ・学校生活振り返りアンケートや日常の観察などを通して、児童理解を深め、学級経営に生かす。	・互いのよさを認め合う活動を日常的に実施した。 ・「いいとこみつけ週間」を「いのちと人権を考える月間」と関連させて、5月・12月に実施した。 ・教員が意図的・計画的に当該児童のよさを引き出す活動を設定した。 ・5・6年生は教科担任制において学年全体の児童の様子について共有し、児童一人一人について学年で情報交換し、学年の担任で協力して、児童が落ち着いた学校生活を送れるようにした。 ・各学期の終わりに学校生活振り返りアンケートを実施し、今学期の努力の成果と課題を自覚させ、次の学期の目標設定の参考資料とするともに、自己の課題をどのように解決するか考えさせた。 ・学校生活振り返りアンケートや日常の観察などを通して、児童理解を深め、学級経営に生かした。	B	・3・4年生で教科担任制を取り入れるために交換授業を行うことで、他クラスの児童の様子についても共有できるようにする。 ・専科教員による副担任制を取り入れ、エデュケーションアシスタントも含めた学年体制により、より多くの教員が児童の様子を共有し、それぞれに応じた指導や対応ができる可能性を広げる。
		友達とよりよい関係を築く。	・生活指導の重点「挨拶」のいつでも・どこでも・だれにでも伝わる挨拶の指導を行う。 ・ふわふわ言葉とナクナク言葉について指導し、何かを伝えるときには、ふわふわ言葉をつかうことを意識できるようにする。 ・「ふれあい月間」に心のアンケートを実施し、必要に応じて担任等による個別面談を行う。 ・舟橋士によるいじめ防止授業の実施(5・6年)、各学級で年間3回のいじめ防止授業の実施。 ・コミュニケーション能力向上のために、コミュニケーションスキルトレーニング、アンガーマネジメントの学習(4年)を実施するとともに各学年でアサーショントレーニングを含めた指導を実施し、コミュニケーション不足によるトラブルの解決能力を高める。 ・授業中に友達のよさを認める発言を促す時間を設定する。	・生活指導の重点「挨拶」のいつでも・どこでも・だれにでも伝わる挨拶の指導を行った。 ・ふわふわ言葉とナクナク言葉について指導し、何かを伝えるときには、ふわふわ言葉をつかうことを意識できるようにした。 ・「ふれあい月間」に心のアンケートを実施し、必要に応じて担任等による個別面談を行った。 ・舟橋士によるいじめ防止授業の実施(5・6年)、各学級で年間3回のいじめ防止授業を実施した。 ・コミュニケーション能力向上のために、コミュニケーションスキルトレーニング、アンガーマネジメントの学習(4年)を実施するとともに各学年でアサーショントレーニングを含めた指導を実施し、コミュニケーション不足によるトラブルの解決能力を高めた。 ・授業中に友達のよさを認める発言を促す時間を設定した。	B	・朝会等で挨拶の手本を示す。 ・呼名してから挨拶をするように心がける。 ・より一層子どもに寄り添い、子どもの思いを大切にしたい指導の実現に向け、SST研修の内容を修正し、学級経営研修と関連させる。
		一人一人を大切にしたい学級、子どもの居場所がある学級づくり	・年度当初に、学級開き研修及び千駄木スタンダード研修を実施し、児童と教員、児童と児童の出会いをよりよいものと感じ、みんなで学級を作っていくとする気持ちを引き出す方を準備する。 ・金学年児童を対象に6月・11月にHyperGUを実施し、GU研修や夏の学級経営研修等により、心のバランスや学級への所属意識を把握し、児童が「自分の居場所だ」と感じられる学級経営となるよう充実・改善を図る。	・年度当初に、学級開き研修及び千駄木スタンダード研修を実施し、児童と教員、児童と児童の出会いをよりよいものと感じ、みんなで学級を作っていくとする気持ちを引き出す方を準備した。 ・金学年児童を対象に6月・11月にHyperGUを実施し、GU研修や夏の学級経営研修等により、心のバランスや学級への所属意識を把握し、児童が「自分の居場所だ」と感じられる学級経営となるよう充実・改善を図った。	B	・学級開きに必要内容は、出会いを楽しくするとともに、学級や学校の決まりを守ることが楽しい学級・学校につながるという意識を育てることとする。 ・学級開き研修では、子どもたちとのリレーションづくりを中心に研修する。
		互いのよさや違いを認め、高めあう児童を育成	・「千駄木のきまり」「千駄木スタンダード」に基づき、全教員が同じ方向性をもった生活指導を実現する。 ・全教職員で「いつでも、どこでも、だれにでも」伝わるように挨拶することを身に付けさせる。	・「千駄木のきまり」「千駄木スタンダード」に基づき、全教員が同じ方向性をもった生活指導を進めた。 ・全教職員で「いつでも、どこでも、だれにでも」伝わるように挨拶することを身に付けさせる指導を進めた。	B	・「千駄木スタンダード」「千駄木の決まり」について児童が守ることのよさを自覚し、設定されている理由を知り、よさを実感するための方法を考える機会を日常的に設定する。

支援教育

個に配慮した指導の実現・特別支援教育の充実	・児童の特性を把握し、特性に応じた指導の実現を行うことで、児童にとって落ち着いて学ぶことができる環境を作る。 ・子どもたちが1日、1週間の見通しをもって過ごすことができるための手だてや、視覚・聴覚による刺激への反応を減らすための教室配置などの工夫を行う。 ・感情コントロールができない場合に、当該児童が落ち着くことができる場所をできるだけ確保する。 ・ユニバーサルデザインを活用した学習環境づくりを検討する。 ・インクルーシブ教育研修を実施する。 ・「学びの教室」の拠点校として、巡回指導教員による研修や配慮が必要な児童への対応について助言をもらう機会を活用し、「個別最適な学び」の実現を図る。	・児童の特性を把握し、特性に応じた指導の実現を行うことで、児童にとって落ち着いて学ぶことができる環境を作った。 ・子どもたちが1日、1週間の見通しをもって過ごすことができるための手だてや、視覚・聴覚による刺激への反応を減らすための教室配置などの工夫を行った。 ・感情コントロールができない場合に、当該児童が落ち着くことができる場所をできるだけ確保した。 ・ユニバーサルデザインを活用した学習環境づくりを検討した。 ・インクルーシブ教育研修を実施した。 ・「学びの教室」の拠点校として、巡回指導教員による研修や配慮が必要な児童への対応について助言をもらう機会を活用し、「個別最適な学び」の実現を図った。	A	・児童が落ち着いているときに、感情コントロールができない事態になったらどこに行くのか、担任にどのように伝えるのかなどを決めておく。 ・感情コントロールができない状態になる前に刺激の少ない環境(音、座席など)を工夫し、教室の整理整頓を心がける。 ・児童の自己調整力や対人スキルを高めるための指導を心がける。(パニックになる原因を把握する。言葉で伝える。認められる機会を増やす。端的にルールを示し、徹底する。など) ・児童が安定した気持ちで生活できるようにするため、見通しをもった生活につながるように、一日の流れを朝の会で説明するとともに週の予定を配布し、いつでも本人が確認できるようにしておく。 ・何かあったときには、児童の気持ちや発生の経緯などを聞き、当該児童を悪いと決めつけた指導を行わないように配慮しつつ、だめなところはだめで、改善するためにするべき言動について指導する。この指導については、必ず複数で対応し、保護者との連携を十分に行う。
不登校及び登校渋り児童に対する具体的な支援の実現	・不登校や登校渋りの児童に対して、個別の状況を丁寧に把握し、児童に応じた支援体制の構築を図る。できるだけ早いうちに対応し、なるべく早く教室に戻ることができる支援体制をつくる。 ・不登校や感染症予防などのために登校できない児童に対して、家庭の状況や本人の気持ちを考慮した個別指導を実現する。	・不登校や登校渋りの児童に対して、個別の状況を丁寧に把握し、児童に応じた支援体制の構築を図った。できるだけ早いうちに対応し、なるべく早く教室に戻ることができる支援体制をつくった。 ・不登校や感染症予防などのために登校できない児童に対して、家庭の状況や本人の気持ちを考慮した個別指導を進めた。	A	・ステップルームを利用している児童については、担任も直接声を掛けたり、学習の場面に参加できる手立てを工夫する。 ・ステップルームでできる学習については、担任と別室登校指導員と相談し、児童に応じたものを用意できるようにすることで、学習の遅れの不安解消につなげる。

(評価基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:一部課題がある D:改善を要する)

学 校 名 文京区立 千駄木小学校 学校関係者評価報告書

重 点 目 標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
		地域を知り、地域に愛着をもつとともに、生活習慣や価値観の違う人と互いのよさを認め合うことができる教育(学校2020レガシー)を充実させる。	・1・2年ポッチャ体験、4年ゴールボール体験、5年車いす・障害者スポーツ(スポーツ)等への理解を深め、福祉についての関心を高め、人権尊重の意識を磨く。 ・地域を知り、地域に愛着をもつことにつながる学習活動の充実を図る。	・1・2年ポッチャ体験、4年ゴールボール体験、5年車いす・障害者スポーツ(スポーツ)等への理解を深め、福祉についての関心を高め、人権尊重の意識を磨いた。 ・地域を知り、地域に愛着をもつことにつながる学習活動の充実を図った。	A	・障害者スポーツ体験活動を通して、福祉への関心を高め、人権尊重の意識を磨く取り組みを継続する。 ・地域で活躍されている方々を講師に迎え、伝統文化継承につながる学習活動を継続する。
		秋田県美郷町立仙南小との交流を充実させる。	・他地域の小学生との交流学习により、多様な価値観及び生活習慣や文化についての理解を進める。	・他地域の小学生との交流学习により、多様な価値観及び生活習慣や文化についての理解を進めた。	A	・次年度も仙南小学校との交流を通して、生活習慣や文化等についての理解を深めていく。
		円滑な接続を図り、校種をこえた連続性のある教育を実現させる。(保幼小中連携)	・小中連携教育として実施した取組について、年間計画の作成、担当者の明確化を行い、定着させる。 ・4校園合同の教員研修や授業参観、研究協議を実施する。 ・保育園・幼稚園の保護者会への教員等の参加による小学校教育の広報活動を行う。 ・1年生スタートカリキュラム・6年生アプローチカリキュラムの実施と見直し及び教職員の共通理解を行う。 ・5年生と年長児との交流(授業体験など)、1年生と年長児との交流(工作、学習)を行う。	・小中連携教育として実施した取組について、年間計画の作成、担当者の明確化を行い、定着させた。 ・4校園合同の教員研修や授業参観、研究協議を実施した。 ・保育園・幼稚園の保護者会への教員等の参加による小学校教育の広報活動を行った。 ・1年生スタートカリキュラム・6年生アプローチカリキュラムの実施と見直し及び教職員の共通理解を行った。 ・5年生と年長児との交流(授業体験など)、1年生と年長児との交流(工作、学習)を行った。	B	・小中連携をできるだけ対面で実施したい。直接中学生から聞くことで憧れの中学生を見付けることもできるし、中学校教員から授業を受けることで文林中学校への期待感が高まると考える。
		高齢者理解学習を実施する。	・3年生はふれあい交流活動、4年生は高齢者体験、5年生は認知症理解学習を実施する。	・3年生はふれあい交流活動、4年生は高齢者体験、5年生は認知症理解学習を実施した。	A	・ふれあい交流活動は町会の協力を求めるが、児童の祖父母等にも声を掛け協力を得る。
	コミュニティ・スクールとして、地域に開かれた教育課程の実現を目指す。		・4・5月の学校運営協議会で本校の教育計画等について説明し、運動会等の学校行事や公開授業を参観いただき、児童の様子を把握していただく。そのうえで、学校運営協議会において課題について説明し、解決策を協議いただく。解決策については、委員にも協力いただき、ともに解決にあたる。 ・本校の充実したPTA活動と学校運営協議会が連携し、ともに子どもを育てる学校づくりを実現する。	・4・5月の学校運営協議会で本校の教育計画等について説明し、運動会等の学校行事や公開授業を参観いただき、児童の様子を把握していただいた。そのうえで、学校運営協議会において課題について説明し、解決策を協議いただいた。解決策については、委員にも協力いただき、ともに解決にあたった。 ・本校の充実したPTA活動と学校運営協議会が連携し、ともに子どもを育てる学校づくりを進めた。	A	・児童の様子を把握していただき、課題について解決策を協議し、ともに子どもを育てる学校づくりを進めていく。

学校評価を活用した学校運営のPDCAの確立	・7月の教員による学校評価自己評価、児童による授業評価、学校生活振り返りアンケート等の結果をもとに、今年度後半の教育活動の改善を図る。 ・12月の教員による学校評価自己評価、児童による授業評価、学校生活振り返りアンケート等の結果をもとに、今年度の教育活動の成果及び課題を分析し、来年度の教育活動の計画を作成する。 ・保護者及び学校関係者による評価を、年に1回実施し、次年度の教育活動についての検討のための資料とする。 ・各担当による、行事等の取組の反省(評価)と改善をすすめ、千駄木小学校の教育活動の充実を図る。 ・年度末にワールドカフェを行い、担当していない分掌についても、教職員が意見交流できる体制を整えていく。	・7月の教員による学校評価自己評価、児童による授業評価、学校生活振り返りアンケート等の結果をもとに、今年度後半の教育活動の改善を図った。 ・12月の教員による学校評価自己評価、児童による授業評価、学校生活振り返りアンケート等の結果をもとに、今年度の教育活動の成果及び課題を分析し、来年度の教育活動の計画を作成した。 ・保護者及び学校関係者による評価を、年に1回実施し、次年度の教育活動についての検討のための資料とした。 ・各担当による、行事等の取組の反省(評価)と改善をすすめ、千駄木小学校の教育活動の充実を図った。 ・年度末にワールドカフェを行い、担当していない分掌についても、教職員が意見交流できる体制を整えた。	A	・校内の校務分掌をよりよく、効率的にするための学校評価を実施する。 ・ワールドカフェの効果が見えてきたので充実、発展させていく。
保護者と連携・協力した教育活動の実施	・保護者からの声を、ホームアンドスクールを活用して効率的に集め、分析し、次の改善に活用する。特に、学校評価の保護者アンケートや行事のアンケートなど、ホームアンドスクールの活用場面を増やす。 ・保護者からの声については、速やかに学年主任、主幹教諭、管理職に報告し、対応が必要な場合はすぐに実施できるよう報告・連絡・相談を適切に行う。 ・学校評価の保護者アンケートの結果は、1月の保護者会で報告するとともに新年度の教育計画に盛り込む大筋の内容を紹介する。 ・保護者が月に1回は来校する機会を作り、本校の教育活動や児童の成長の様子について伝える機会とする。 ・保護者会は、保護者が来校して参加することを原則とするとともに、来校したからこそ伝わったと感じていただける内容にする。また、保護者同士で話をする機会をなるべく取り入れ、放課後や休日のトラブルについて、家庭で解決できるように促す。一方で来校できない保護者からオンラインについても強い要望があったことを受け全体保護者会と学年・学級保護者会の連絡についてはオンラインを活用することとする。 ・PTA行事(サマーフェスティバル、子供フェスティバル等)には、教職員も協力し、資源回収やPTAスポーツ大会にもできるだけ参加することで、保護者と学校の協力体制の強化を図る。	・保護者からの声を、ホームアンドスクールを活用して効率的に集め、分析し、次の改善に活用した。特に、学校評価の保護者アンケートや行事のアンケートなど、ホームアンドスクールの活用場面を増やした。 ・保護者からの声については、速やかに学年主任、主幹教諭、管理職に報告し、対応が必要な場合はすぐに実施できるよう報告・連絡・相談を適切に行った。 ・学校評価の保護者アンケートの結果は、1月の保護者会で報告するとともに新年度の教育計画に盛り込む大筋の内容を紹介した。 ・保護者が月に1回は来校する機会を作り、本校の教育活動や児童の成長の様子について伝える機会とした。 ・保護者会は、保護者が来校して参加することを原則とするとともに、来校したからこそ伝わったと感じていただける内容にした。また、保護者同士で話をする機会をなるべく取り入れ、放課後や休日のトラブルについて、家庭で解決できるように促した。一方で来校できない保護者からオンラインについても強い要望があったことを受け全体保護者会と学年・学級保護者会の連絡についてはオンラインを活用した。 ・PTA行事(サマーフェスティバル、子供フェスティバル等)には、教職員も協力し、資源回収やPTAスポーツ大会にもできるだけ参加することで、保護者と学校の協力体制の強化を図った。	B	・保護者会で、さらに保護者同士が交流を深められるような取組を実施していく。 ・保護者会の持ち方を工夫するようにする。オンラインではできない、来校してよかったと実感できる内容にする。

地域とのWin—Winの関係の形成	・コミュニティ・スクールとしての学校運営を円滑に進める中で、地域との連携を深める。 ・教育活動への協力に対する事前の丁寧な説明と事後の感謝の表現、できれば効果についてのフィードバックを行う。 ・地域行事(千駄木マラソン等)やPTA 活動(資源回収・夏の行事・子供フェスティバル等)などへの参加協力を行う。	・コミュニティ・スクールとしての学校運営を円滑に進める中で、地域との連携を深めた。 ・教育活動への協力に対する事前の丁寧な説明と事後の感謝の表現を行った。 ・地域行事(千駄木マラソン等)やPTA 活動(資源回収・夏の行事・子供フェスティバル等)などへの参加協力を行った。	B	・教育活動への協力に対する効果についてのフィードバックを行う。 ・3年生の総合的な学習の時間「地域に伝わる技」でゲストティーチャーとしておいでいただける方を学校運営協議会委員に紹介していただく。
胸を張って子どもの前に立てる教職員であり続ける。	・OJT例会、学年経営等における主任教諭を核とした教員の育成を図る。 ・1対1の関係を基にしたOJT体制の構築を図る。 ・心身共に健康で、職務に専念できるような健康管理とライフワークバランスの実現を図る。 ・教育職員としての誇りをもち続け、ヒヤリ、ハット！の状況を把握し、事前の防止に努め、互いに声をかけあうことを通して、服務事故ゼロとする。	・OJT例会、学年経営等における主任教諭を核とした教員の育成を図った。 ・1対1の関係を基にしたOJT体制の構築を図った。 ・心身共に健康で、職務に専念できるような健康管理とライフワークバランスの実現を図った。 ・教育職員としての誇りをもち続け、ヒヤリ、ハット！の状況を把握し、事前の防止に努め、互いに声をかけあうことを通して、服務事故ゼロとした。	B	・計画休暇の推進、余剰時数の縮減、通知表の作業の縮減を行う。 ・転出入の書類の確認と確実な保管、成績等の個人情報 の確実な手渡し、アレルギー対応食があるときのおかわりの配食に十分気を付ける。
ウェルビーイングな学校づくり	・すべての教員が担当した分掌について、責任をもって企画・提案・実施・反省・改善までの流れを実施し、学校経営に参画する力を育成する。 ・学校の課題は、全教職員で組織的に協力して解決する。そのためにも、日常の指導状況を共有するためにも、教室のドアはなるべく開けておく。 ・5・6年の教科担任制において、学年の教員及び専科教員、時間講師や支援として入る教職員と情報(時間割、指導内容、個別の配慮事項など)を共有し、連携・協力して指導に当たる。 ・ICTの活用を効果的にを行い、会議の提案はなるべく夕会を活用するとともに、確実な文書管理などの改善に努める。 ・スクールサポートスタッフ、用務主事等への仕事の依頼は、副校長を通す。 ・主幹教諭を中心とした組織をつくり、各職の担当すべき役割を明確にする。	・すべての教員が担当した分掌について、責任をもって企画・提案・実施・反省・改善までの流れを実施し、学校経営に参画する力を育成した。 ・学校の課題は、全教職員で組織的に協力して解決した。そのためにも、日常の指導状況を共有するためにも、教室のドアはなるべく開けた。 ・5・6年の教科担任制において、学年の教員及び専科教員、時間講師や支援として入る教職員と情報(時間割、指導内容、個別の配慮事項など)を共有し、連携・協力して指導に当たった。 ・ICTの活用を効果的にを行い、会議の提案はなるべく夕会を活用するとともに、確実な文書管理などの改善に努めた。 ・スクールサポートスタッフ、用務主事等への仕事の依頼は、副校長を通した。 ・主幹教諭を中心とした組織をつくり、各職の担当すべき役割を明確にした。	B	・若手教員や中堅教員が安心して、悩みやたわいもない話ができるような環境・雰囲気づくりをしていく。 ・児童の情報共有のために、さらに気兼ねなく情報交換できる雰囲気づくりに努めていく。 ・コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを身に付ける方法を学ぶ研修を実施していく。

(評価基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:一部課題がある D:改善を要する)